

社会を変えていく力



法学部長

はしもと
橋本 基弘
もとひろ

卒業生の皆さんおめでとうござい

ます。小学校から始まる長い教育課程が今日一段落つきます。まずは、皆さんを見守ってくれたご両親や関係者の方に感謝しましょう。一人の人間を育てるために費やす時間と労力はあまりに尊い。卒業式の式場に立つと、無償で無限の愛情が皆さん一人ひとりに注がれていることにあらためて気づかされます。

日本社会は長い停滞期に入ったまま出口を見いだせないでいます。少子高齢化を解消できる特効薬は見つかっていません。そのような状況の中皆さんは船出をしていきます。とにかく明日を信じていけば生きていく時代は終わりました。不確実な世界で生きるため大きな組織、安定した職に学生の関心が殺到するの

理解できます。

しかし、皆さんが大学教育を受けたのは安定した職を得るためだけではなかったはずで。大学教育の目的は、物事の根本にまで遡って考えること、自分自身で考えた結果を世の中に適用して、あるときは自らを省み、あるときは社会を変革することにあると私は思います。どのような職に就こうとも、いかなる立場に立とうとも学問を修めたことの意味に思いを致して下さい。

人類史上未知の少子高齢化をどう乗り越えるのか。この答えは私たち一人ひとりが考えていくしかありません。そのとき鍵を握るのは皆さんのような若い力です。旧弊にとらわれず、突破口を探して下さい。皆さんのご健康とご活躍を祈ります。

卒業おめでとうございます



経済学部長

せきの
関野 満夫
みつお

経済学部卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

多くの方はこの4月から実社会に進んで、社会人としての一步を踏み出すことになると思います。その一方で、昨今の雇用情勢の悪化から、就職活動の継続を余儀なくされる方もいるかもしれません。いずれにせよ、大学卒業を機に新しい人生のステージに立つことになりました。経済学部の教職員一同はみなさんの活躍を期待しております。

経済学部を卒業するということは、学士（経済学）の称号を授与されるということですが、今後、みなさんは周囲から経済学士としての実力を備えているとみなされます。その心構えはできているでしょうか。経済学部で4年間学ぶことによって、みな

さんは経済学の一定の体系的知識を身につけたことでしょうか。と同時に重要なことは、授業やゼミ活動などを通じて、様々な应用能力や総合的判断能力を養ってきたはずで。学士に期待されるのは、この知識と総合的な応用判断能力なのです。

日本および世界の経済現象や社会現象は日々変化しており、大学で学んだ知識だけでは今後十分に対処できないこともあるかもしれません。その意味では、卒業で勉強から解放されると思うのではなく、卒業後も読書や教養の機会を活用して、知識と知的能力を不断に深めるよう努力してください。

最後に、今後とも健康に留意して、少しのことにくじけず、前向きに人生を歩んでいかれることを期待して、贈る言葉とさせていただきます。